

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号
特開2000-107224
(P2000-107224A)

(43) 公開日 平成12年4月18日 (2000.4.18)

(51) Int.Cl.⁷

識別記号

F I

テマコード* (参考)

A 6 1 F 13/15

A 4 1 B 13/02

K 3 B 0 2 9

5/44

A 6 1 F 5/44

H 4 C 0 9 8

審査請求 未請求 請求項の数 8 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号

特願平10-281702

(22) 出願日

平成10年10月2日 (1998.10.2)

(71) 出願人 000115108

ユニ・チャーム株式会社

愛媛県川之江市金生町下分182番地

(72) 発明者 藤原 哲嗣

香川県三豊郡豊浜町和田浜高須賀1531-7

ユニ・チャーム株式会社テクニカルセン
ター内

(72) 発明者 三嶋 祥宜

香川県三豊郡豊浜町和田浜高須賀1531-7

ユニ・チャーム株式会社テクニカルセン
ター内

(74) 代理人 100066267

弁理士 白浜 吉治

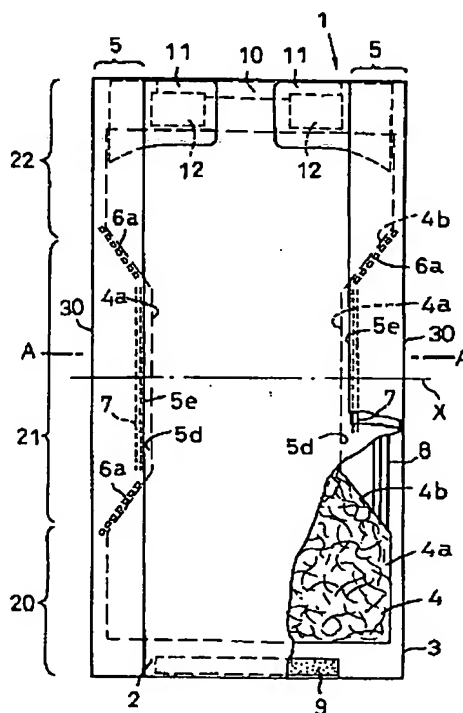
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 使い捨て着用物品

(57) 【要約】

【課題】 流入した排泄物の流出を防ぐことができるポケットを比較的簡易な手段によって形成する。

【解決手段】 トップシート2と、バックシート3と、これら両シート2、3の間に介在するコア4とから構成され、前後胴周り域20、22および股下域21と、長手方向および幅方向とを有し、コア4の両側縁4aから幅方向外側へ延出し、弾性部材が取り付けられたサイドフラップ5を有する使い捨て着用物品1であり、サイドフラップ5が、物品1の内側へ折曲されて、第1部分5aと、第1部分5aの上方に位置する第2部分5bとに画成され、第1部分5aと第2部分5bとが、長手方向において対向離間し、物品1の内側から外側へ向かって対向間隔が次第に拡大するように傾斜する一対のシール部6aにおいて互いに接合され、第1部分5aと第2部分5bとには、弾性部材として長手方向へ延びる第1および第2弾性部材7、8が伸長状態で取り付けられている。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 透液性トップシートと、不透液性バックシートと、これら両シートの間介在する吸液性コアとから構成され、前後胴周り域および股下域と、長手方向および幅方向とを有し、少なくとも前記股下域における前記コアの両側縁それぞれから前記幅方向外側へ延出し、前記長手方向に弾性伸縮性部材が取り付けられたサイドフラップを有する使い捨て着用物品において、前記サイドフラップが、前記物品の内側へ折曲されて、第 1 部分と、前記第 1 部分の上方に位置する第 2 部分とに画成され、

前記第 1 部分と前記第 2 部分とが、前記長手方向において対向離間し、前記物品の内側から外側へ向かって対抗間隔が次第に拡大するように傾斜する一対のシール部において互いに接合され、

前記第 1 部分と前記第 2 部分とには、前記弾性部材として前記長手方向へ延びる第 1 および第 2 弾性部材が伸長状態で取り付けられていることを特徴とする前記着用物品。

【請求項 2】 前記弾性部材それぞれの伸長状態を解除してこれら弾性部材が前記第 1 部分と前記第 2 部分とにおいて収縮したときに、前記第 2 部分に位置する前記第 2 弾性部材の収縮する寸法が、前記第 1 部分に位置する前記第 1 弾性部材のそれよりも大きい請求項 1 記載の着用物品。

【請求項 3】 透液性トップシートと、不透液性バックシートと、これら両シートの間介在する吸液性コアとから構成され、前後胴周り域および股下域と、長手方向および幅方向とを有し、前記コアの両側縁およびこれらの前記長手方向への仮想延長線それぞれから前記幅方向外側へ延出し、前記長手方向に弾性伸縮性部材が取り付けられたサイドフラップを有する使い捨て着用物品において、

前記サイドフラップが、前記物品の内側へ折曲されて、第 1 部分と、前記第 1 部分の上方に位置する第 2 部分とに画成され、

前記股下域における前記第 1 部分と前記第 2 部分とが、前記長手方向において対向離間し、前記物品の内側から外側へ向かって対抗間隔が次第に拡大するように傾斜する一対のシール部において互いに接合され、

前記第 1 部分と前記第 2 部分との少なくとも一方には、前記弾性部材が伸長状態で取り付けられていることを特徴とする前記着用物品。

【請求項 4】 透液性トップシートと、不透液性バックシートと、これら両シートの間介在する吸液性コアとから構成され、前後胴周り域および股下域と、長手方向および幅方向とを有し、少なくとも前記股下域における前記コアの両側縁それぞれから前記幅方向外側へ延出し、前記長手方向に弾性伸縮性部材が取り付けられたサイドフラップを有する使い捨て着用物品において、

前記サイドフラップが、前記物品の内側へ折曲され、さらに、前記物品の外側へ折曲されて、第 1 部分と、前記第 1 部分の上方に位置する第 2 部分と、前記第 2 部分の上方に位置する第 3 部分とに画成され、

前記第 1 部分と前記第 2 部分とが、前記長手方向において対向離間し、前記物品の内側から外側へ向かって対抗間隔が次第に拡大するように傾斜する一対の第 1 シール部において互いに接合され、

前記第 2 部分と前記第 3 部分とが、前記第 1 シール部の間に位置する第 2 シール部において互いに接合され、

前記第 1 部分には、前記弾性部材として前記長手方向へ延びる第 1 弾性部材が伸長状態で取り付けられ、前記第 2 部分と前記第 3 部分との少なくとも一方には、前記弾性部材として前記長手方向へ延びる第 2 弾性部材が伸長状態で取り付けられていることを特徴とする前記着用物品。

【請求項 5】 前記弾性部材それぞれの伸長状態を解除してこれら弾性部材が前記第 1 部分と前記第 2、3 部分とにおいて収縮したときに、前記第 2 部分と前記第 3 部分との少なくとも一方に位置する前記第 2 弾性部材の収縮する寸法が、前記第 1 部分に位置する前記第 1 弾性部材のそれよりも大きい請求項 4 記載の着用物品。

【請求項 6】 前記サイドフラップが、前記コアの両側縁それぞれから前記幅方向外側へ延出する前記トップシートと前記バックシートとのうちの少なくとも一方で形成されている請求項 1 ないし請求項 5 いずれかに記載の着用物品。

【請求項 7】 前記サイドフラップが、前記コアの両側縁それぞれの近傍で前記トップシートの上面に接合されて前記側縁それぞれから前記幅方向外側へ延びる液抵抗性シートと、前記液抵抗性シートと重なり合って互いに接合された前記バックシートとにより形成されている請求項 1 ないし請求項 5 いずれかに記載の着用物品。

【請求項 8】 前記コアが、前記股下域において、側縁と、前記長手方向に対向離間し前記物品の内側から外側へ向かって次第に対抗間隔が拡大するように傾斜する一対の端縁とによって凹欠部を形成されたほぼ砂時計型を有し、前記端縁に前記シール部が並行する請求項 1 ないし請求項 7 いずれかに記載の着用物品。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、使い捨てのおむつ、失禁パンツ、トレーニングパンツ等の着用物品に関する。

【0002】

【従来の技術】特開昭 58-54005 号公報に開示の使い捨ておむつカバーは、カバー本体の両側部に股下域の前後方向へ互いに離間して幅方向内側へ延びる一対の切込みを形成し、切込みの間において両側縁部をカバー本体の内側へ折返して、折返し部の両端縁部近傍をカバ

一本体内面に接合している。カバー本体内面の股下域には、おむつの側縁部を挿抜するためのポケットが形成されている。

【0003】特開昭62-250201号公報に開示の使い捨ておむつでは、透液性内面シートと不透液性外面シートとの間に介在する吸液性コアの側縁それぞれから幅方向外側へ延出するサイドフラップに弾性部材が取り付けられている。弾性部材の内側では、サイドフラップの上面から分岐する第2フラップがおむつの内側へ向かって倒伏し、第2フラップの長手方向両端部がおむつの内面に接合している。第2フラップの自由縁には、第2の弾性部材が取り付けられ、第2の弾性部材で第2フラップはその分岐縁から起き上がることが可能である。サイドフラップは、着用者の大腿に圧接し、第2フラップは、中央部の自由縁が着用者の大腿付根に当接することが可能である。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】特開昭58-54005号公報に開示の使い捨ておむつのポケットは、両端縁部の間の寸法が、ポケットの開口から奥へ向って次第に小さくなるもので、このポケットに流入した排泄物の流出を防ぐことが難しい。

【0005】特開昭62-250201号公報に開示の使い捨ておむつでは、第2フラップとしての別部材を用意して、これをおむつ本体のサイドフラップ上面に接合しなければならないという手間がかかる。

【0006】本発明の課題は、使い捨て着用物品において、流入した排泄物の流出を防ぐことができるポケットを比較的簡易な手段によって形成することにある。

【0007】

【課題を解決するための手段】前述した課題を解決するために、本発明が前提とするところは、透液性トップシートと、不透液性バックシートと、これら両シートとの間に介在する吸液性コアとから構成され、前後胴周り域および股下域と、長手方向および幅方向とを有し、少なくとも前記股下域における前記コアの両側縁それぞれから前記幅方向外側へ延出し、前記長手方向に弾性伸縮性部材が取り付けられたサイドフラップを有する使い捨て着用物品である。

【0008】かかる前提において、本発明の第1の特徴は、前記サイドフラップが、前記物品の内側へ折曲されて、第1部分と、前記第1部分の上方に位置する第2部分とに画成され、前記第1部分と前記第2部分とが、前記長手方向において対向離間し、前記物品の内側から外側へ向かって対向間隔が次第に拡大するように傾斜する一対のシール部において互いに接合され、前記第1部分と前記第2部分とは、前記弾性部材として前記長手方向へ延びる第1および第2弾性部材が伸長状態で取り付けられていることにある。

【0009】かかる前提において、本発明の第2の特徴

は、前記サイドフラップが、前記物品の内側へ折曲されて、第1部分と、前記第1部分の上方に位置する第2部分とに画成され、前記股下域における前記第1部分と前記第2部分とが、前記長手方向において対向離間し、前記物品の内側から外側へ向かって対向間隔が次第に拡大するように傾斜する一対のシール部において互いに接合され、前記第1部分と前記第2部分との少なくとも一方には、前記弾性部材が伸長状態で取り付けられていることにある。

10 【0010】かかる前提において、本発明の第3の特徴は、前記サイドフラップが、前記物品の内側へ折曲され、さらに、前記物品の外側へ折曲されて、第1部分と、前記第1部分の上方に位置する第2部分と、前記第2部分の上方に位置する第3部分とに画成され、前記第1部分と前記第2部分とが、前記長手方向において対向離間し、前記物品の内側から外側へ向かって対向間隔が次第に拡大するように傾斜する一対の第1シール部において互いに接合され、前記第2部分と前記第3部分とが、前記第1シール部の間に位置する第2シール部において互いに接合され、前記第1部分には、前記弾性部材として前記長手方向へ延びる第1弾性部材が伸長状態で取り付けられ、前記第2部分と前記第3部分との少なくとも一方には、前記弾性部材として前記長手方向へ延びる第2弾性部材が伸長状態で取り付けられていることにある。

20 【0011】第1の特徴を有する本発明の実施の形態の一例としては、前記弾性部材それぞれの伸長状態を解除してこれら弾性部材が前記第1部分と前記第2部分とにおいて収縮したときに、前記第2部分に位置する前記第2弾性部材の収縮する寸法が、前記第1部分に位置する前記第1弾性部材のそれよりも大きい。

30 【0012】第3の特徴を有する本発明の実施の形態の一例としては、前記弾性部材それぞれの伸長状態を解除してこれら弾性部材が前記第1部分と前記第2、3部分とにおいて収縮したときに、前記第2部分と前記第3部分との少なくとも一方に位置する前記第2弾性部材の収縮する寸法が、前記第1部分に位置する前記第1弾性部材のそれよりも大きい。

40 【0013】第1～3の特徴を有する本発明の実施の形態の一例としては、前記サイドフラップが、前記コアの両側縁それぞれから前記幅方向外側へ延出する前記トップシートと前記バックシートとのうちの少なくとも一方で形成されている。

50 【0014】第1～3の特徴を有する本発明の実施の形態の他の一例としては、前記サイドフラップが、前記コアの両側縁それぞれの近傍で前記トップシートの上面に接合されて前記側縁それぞれから前記幅方向外側へ延びる液抵抗性シートと、前記液抵抗性シートと重なり合っ互いに接合された前記バックシートとにより形成されている。

【0015】第1～3の特徴を有する本発明の実施の形態の他の一例としては、前記コアが、前記股下域において、側縁と、前記長手方向に対向離間し前記物品の内側から外側へ向かって次第に対向間隔が拡大するように傾斜する一対の端縁とによって凹欠部を形成されたほぼ砂時計型を有し、前記端縁に前記シール部が並行する。

【0016】

【発明の実施の形態】添付の図面を参照して、本発明に係る使い捨て着用物品の詳細を使い捨ておむつを例にとり説明すると、以下のとおりである。

【0017】図1、2は、使い捨ておむつ1の部分破断平面図と、サイドフラップ5を折曲する前の状態を示すおむつ1の平面図であり、図1では、図2において、コア4の両側縁4aそれぞれから幅方向外側へ延出しているサイドフラップ5が、第1折曲線30で矢印で示す方向へ折曲されている。使い捨ておむつ1は、透液性トップシート2と、不透液性バックシート3と、トップシート2とバックシート3との間に介在し、これらシート2、3のうちの少なくとも一方の内面に接合した吸液性コア4とで構成され、第1折曲部30でおむつ1の内側へ折曲されたサイドフラップ5と、幅方向と交差する長手方向に前胴周り域20と、後胴周り域22と、これら前後胴周り域20、22の間に位置する股下域21とを有する。

【0018】コア4は、股下域21において、側縁4aと、コア4の長手方向へ互いに対向離間し、おむつ1の内側から外側へ向かって次第に対向間隔が拡大する一対の端縁4bとによって、凹欠部が形成されたほぼ砂時計型を有する。

【0019】サイドフラップ5は、コア4の両側縁4aそれぞれから幅方向外側へ延出するトップシート2とバックシート3とで形成され、コア4の側縁4aに沿う基側部5dと、基側部5dと並行する対向側部5eとを有する。サイドフラップ5の基側部5dと対向側部5eとの中間には、おむつ1の長手方向へ第1折曲線30が延びている。

【0020】図3は、図1のA-A線切断面を示す図である。サイドフラップ5は、幅方向において基側部5dと第1折曲線30との間でおむつ1の幅方向外側へ延びる第1部分5aと、第1部分5aの上方に位置し、第1折曲線30と対向側部5eとの間でおむつ1の幅方向内側へ延びる第2部分5bとに画成されている。

【0021】サイドフラップ5の第1部分5aと第2部分5bとは、おむつ1の長手方向を二分する中心線Xを挟んで対向離間し、おむつ1の長手方向と交差する方向へ延びる一対の第1シール部6aで互いに接合している。第1シール部6aは、おむつ1の内側から外側へ向かって中心線Xから次第に遠ざかるように傾斜し、コア4の端縁4bと並行して延びている。

【0022】サイドフラップ5の第1部分5aには、お

むつ1の長手方向へ延びる3本の弾性伸縮性部材8を、トップシート2とバックシート3との間に介在させ、これらシート2、3のうちの少なくとも一方の内面に伸長状態で接合している。サイドフラップ5の対向側部5eには、おむつ1の長手方向へ延びる2本の弾性伸縮性部材7を、トップシート2とバックシート3との間に介在させ、これらシート2、3のうちの少なくとも一方の内面に伸長状態で接合している。これら弾性部材7、8は、第1シール部6aの間に延びている。

10 【0023】弾性部材7、8の伸長状態を解除して、弾性部材7、8が第1部分5aと第2部分5bとにおいて収縮したときの第2部分5bに位置する弾性部材7の収縮する寸法は、第1部分5aに位置する弾性部材8のそれよりも大きい。弾性部材7の収縮する寸法を弾性部材8のそれよりも大きくするには、弾性部材7を弾性部材8よりも高伸長状態で第2部分5bに接合すればよい。

【0024】前後胴周り域20、22には、前後胴周り域20、22の端縁に沿って、おむつ1の幅方向へ延びるフィルム状の弾性伸縮性部材9、10を、トップシート2とバックシート3との間に介在させ、これらシート2、3のうちの少なくとも一方の内面に伸長状態で接合している。後胴周り域22の両側縁部には、おむつ1の幅方向内側へ延出する一対のテープファスナ11の基端部を、トップシート2とバックシート3との間に介在させ、これらシート2、3に剥離不能に接合している。テープファスナ11の自由端部には、メカニカルファスナ12のうちのフック部材またはループ部材のいずれか一方の部材を取り付けている。

30 【0025】サイドフラップ5は、図3に仮想線で示すように、おむつ1の長手方向が下方へ向って湾曲したときに、サイドフラップ5の第2部分5bが、第1シール部6aの間において、弾性部材7の収縮力で上方へ起立する性向を示し、第1シール部6aの間では、サイドフラップ5の第1部分5aと第2部分5bとが、おむつ1の内側へ向って開口するポケット25を形成する。第2部分5bに位置する弾性部材7は、第1部分5aに位置する弾性部材8よりも大きく収縮するので、第1部分5aの弾性部材8が収縮しても第2部分5bの弾性部材7の緊張状態は維持され、起立した第2部分5bが倒伏することはない。

40 【0026】図4は、図3とは異なる構成のサイドフラップ5の切断面を示す図である。サイドフラップ5は、コア4の両側縁4aそれぞれの近傍でトップシート2の上面に接合して、コア4の両側縁4aから幅方向外側へ延びる液抵抗性シート9と、コア4の両側縁4aから幅方向外側へ延びるバックシート3とにより形成されている。サイドフラップ5は、第1折曲線でおむつ1の内側へ折曲されている。トップシート2の側縁へ滲出した排泄物は、液抵抗性シート9が障壁となるので、サイドフラップ5から外側へ漏れ出すことがない。

【0027】図5は、おむつ1の斜視図であり、後胴周り域22のテープファスナ11を前胴周り域20に係合させた状態を示す。前胴周り域20には、メカニカルファスナのうちの他方の部材からなるターゲットテープ13を取り付けてある。おむつ1は、前後胴周り域20、22の両側縁部に位置するサイドフラップ5を拡開させて、テープファスナ11をターゲットテープ13に係合させると、胴周り開口25と一対の脚周り開口26とが形成される。おむつ1の股下域21には、サイドフラップ5の第2部分5bがおむつ1の内側へ向って延びてい

る。弾性部材7、8、9、10それぞれが収縮すると、胴周り開口25と脚周り開口26とには、ギャザーが形成される。

【0028】図6、7は、図1とは異なる態様の使い捨ておむつ1の部分破断平面図と、図6のB-B線切断面を示す図である。サイドフラップ5の基側部5dと対向側部5eとの間には、基側部5d寄りにおむつ1の長手方向へ第1折曲線30が延び、対向側部5e寄りにおむつ1の長手方向へ第2折曲線が延びている。サイドフラップ5は、第1折曲線30によりおむつ1の内側へ折曲され

されるとともに、第2折曲線31によりおむつ1の外側へ折曲されている。

【0029】サイドフラップ5は、幅方向において基側部5dと第1折曲線30との間でおむつ1の幅方向外側へ延びる第1部分5aと、第1部分5aの上方に位置し、第1折曲線30と第2折曲線31の間でおむつ1の幅方向内側へ延びる第2部分5bと、第2部分5bの上方に位置し、第2折曲線31と対向側部5eとの間でおむつ1の幅方向外側へ延びる第3部分5cとに画成されている。

【0030】サイドフラップ5の第1部分5aと第2部分5bとは、おむつ1の長手方向を二分する中心線Xを挟んで対向離間し、おむつ1の長手方向と交差する方向へ延びる一対の第1シール部6aで互いに接合している。第1シール部6aは、おむつ1の内側から外側へ向って中心線Xから次第に遠ざかるように傾斜して延びている。サイドフラップ5の第2部分5bと第3部分5cとは、第1折曲線30に沿って第1シール部6aの間でおむつ1の長手方向へ延びる第2シール部6bで互いに接合している。

【0031】サイドフラップ5の第1部分5aには、サイドフラップ5の長手方向へ延びる3本の弾性部材8を、トップシート2とバックシート3との間に介在させ、これらシート2、3のうちの少なくとも一方の内面に伸長状態で接合している。第2折曲線の近傍には、サイドフラップ5の長手方向へ延びる2本の弾性部材7を、第2部分5bと第3部分5cとの間に介在させ、バックシート3の外面に伸長状態で接合している。これら弾性部材7、8は、第1シール部6aの間に延びてい

る。弾性部材7は、トップシート2とバックシート3との間に介在し、これらシート2、3のうちの少なくとも一方の内面に伸長状態で接合してもよい。第2部分5bと第3部分5cとの間に位置する弾性部材7の収縮する寸法は、第1部分5aに位置する弾性部材8のそれよりも大きい。

【0032】サイドフラップ5は、図7に仮想線で示すように、おむつ1の長手方向が下方へ向って湾曲したときに、サイドフラップ5の第2部分5bと第3部分5cとが、第1シール部6aの間において、弾性部材7の収縮力で上方へ起立する性向を示し、第1シール部6aの間では、サイドフラップ5の第1部分5aと第2部分5bとがおむつ1の内側へ向って開口するポケット25を形成する。サイドフラップ5は、図3と同様に液抵抗性シート9とバックシート3とにより形成されていてもよい。

【0033】図8は、図6のC-C線切断面を示す図である。サイドフラップ5の第1部分5aと第2部分5bとは、第1シール部6aにおいて接合されており、第2部分5bと第3部分5cとは、第1シール部6aにおいて非接合状態にある。第1シール部6aでは、接合部位の剛性が他の部位と比較して高くなり、身体に当接すると堅い感触を与える。第1シール部6aを第3部分5cで被覆しているため、第1シール部6aが直接身体に当接することがない。

【0034】おむつ1は、別部材をサイドフラップ5の上面に接合することなく、ポケット25を形成し、排泄物の横漏れを防止することができる。前後胴周り域20、22の両側縁部では、折曲されているサイドフラップ5を拡開させることで、幅方向外側へ延出する翼部を形成することができるので、股下域21を裁断することなく、おむつ1に凹欠部を形成することができる。

【0035】図6に示すおむつ1は、サイドフラップ5を折曲したときの幅方向の寸法を、図1のおむつ1のそれよりも小さくすることができるので、サイドフラップ5がおむつ1の内側へ倒れた場合でもトップシート2を広く覆うことがなく、コア4の吸収性の妨げにならない。

【0036】トップシート2には、疎水性不織布を親水化剤で処理したものや親水化剤を練り込んだ繊維で形成した親水性不織布が用いられる。これら不織布に代えて開孔を有する熱可塑性合成樹脂フィルムを用いることもできる。

【0037】バックシート3と液抵抗性シート9とは、合成樹脂フィルムまたは合成樹脂フィルムと疎水性不織布とのラミネートシート等が用いられる。コア4は、フラッフパルプと高吸収性ポリマー粒子との混合物であり、所要の厚みに圧縮され、全体がティッシュペーパー等の透水シートによって被覆されている。これら部材の接合には、ホットメルト接着剤等の接着剤や粘着材、各

【0038】

【発明の効果】本発明に係る使い捨て着用物品によれば、別部材をサイドフラップの上面に接合することなく、物品の内側へ向って開口するポケットを簡単に形成することができる。第1シール部は、物品の長手方向に対向離間し、物品の内側から外側へ向って次第に対向間隔が拡大するように傾斜して延びていて、排泄物の流入口が狭く、内部が広がっているため、ポケットに流入した排泄物の流出を防止することができる。

【0039】また、第1シール部が、コアの端縁と並行するように傾斜しているため、サイドフラップの長手方向両端部を外側へ拡開して翼部を形成するときの拡開限界を規制するとともに、着用者の大腿に自然な状態で斜めに当接する。

【図面の簡単な説明】

【図1】使い捨ておむつの部分破断平面図。

【図2】サイドフラップを折曲する前の状態を示すおむつの平面図。

【図3】図1のA-A線切断面を示す図。

【図4】図3とは異なる構成のサイドフラップの切断面を示す図。

【図5】テープファスナを前胴周り域に係合させた状態を示すおむつの斜視図。

【図6】図1とは異なる態様のおむつの部分破断平面

図。

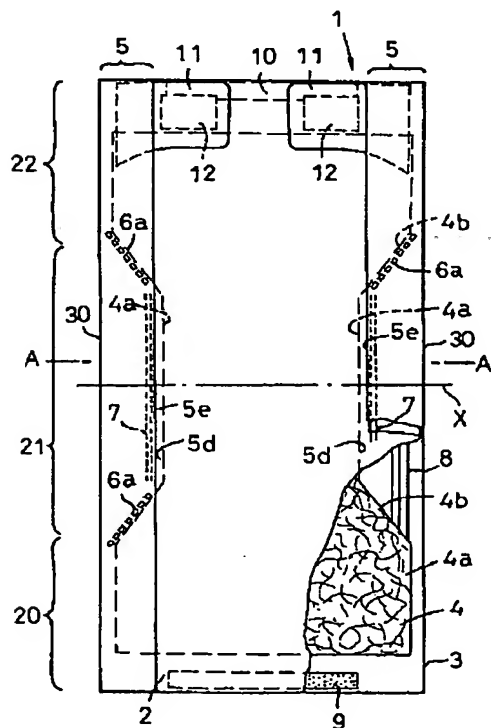
【図7】図6のB-B線切断面を示す図。

【図8】図6のC-C線切断面を示す図。

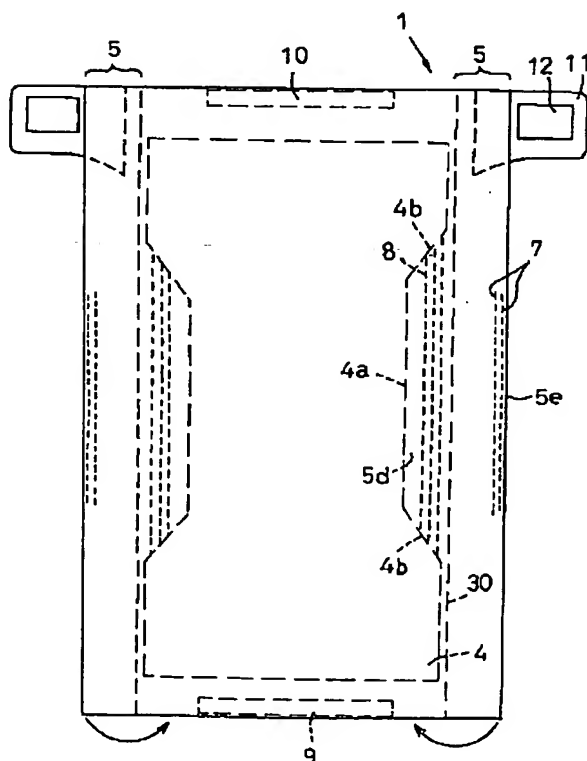
【符号の説明】

- | | |
|-----|------------|
| 1 | 使い捨ておむつ |
| 2 | 透液性トップシート |
| 3 | 不透液性バックシート |
| 4 | 吸液性コア |
| 4 a | 側縁 |
| 4 b | 端縁 |
| 5 | サイドフラップ |
| 5 a | 第1部分 |
| 5 b | 第2部分 |
| 5 c | 第3部分 |
| 5 d | 基側部 |
| 5 e | 対向側部 |
| 6 a | 第1シール部 |
| 6 b | 第2シール部 |
| 7 | 弾性伸縮性部材 |
| 8 | 弾性伸縮性部材 |
| 9 | 液抵抗性シート |
| 30 | 第1折曲線 |
| 31 | 第2折曲線 |
| X | 中心線 |

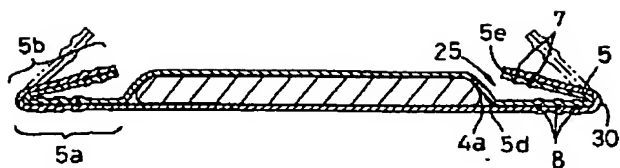
【図1】



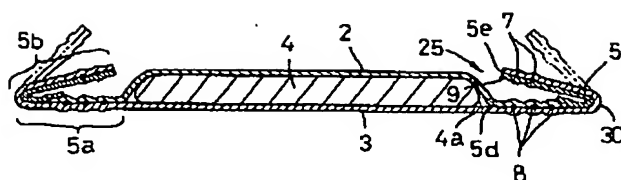
【図2】



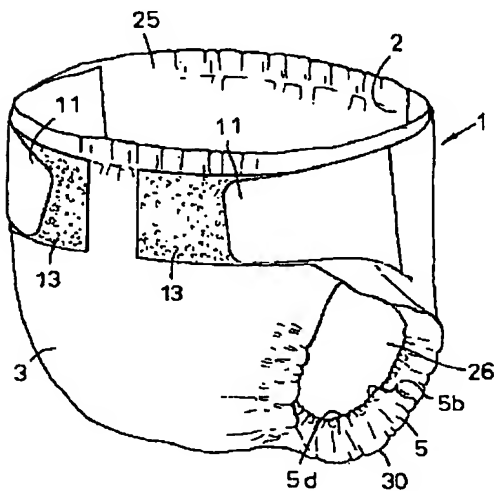
【図3】



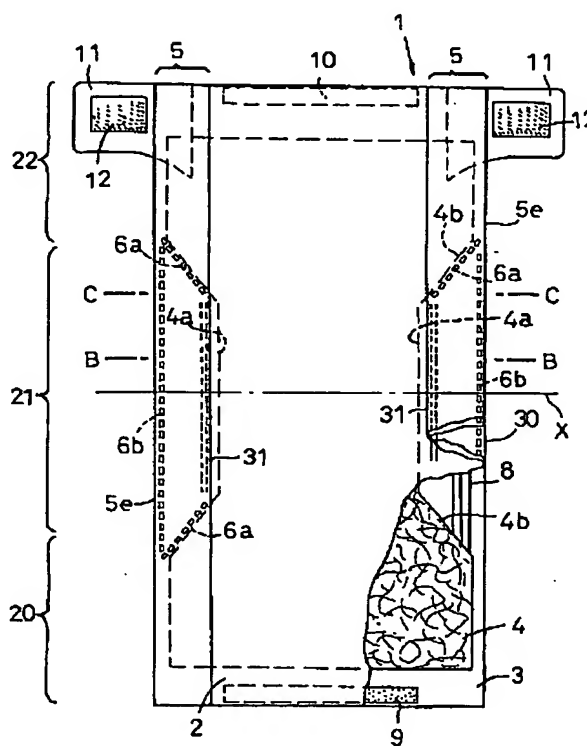
【図4】



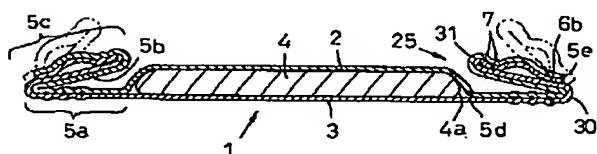
【図5】



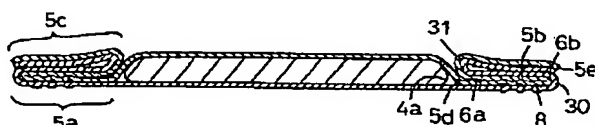
【図6】



【図7】



【図8】



フロントページの続き

Fターム(参考) 3B029 BD01 BD06 BD09 BD12 BD13
BD17
4C098 AA09 CC07 CC10 CC12 CC15
CE07